

3.4 考察及び提案

(1) 登山道等の現況調査 〈写真撮影〉

公園名	1kmあたりの撮影枚数				
	施設 (健全)	施設 (問題あり)	環境 (問題あり)	登山道状況 (健全)	計
中部山岳北アルプス北部	2.88	0.18	0.04	0.57	3.68
中部山岳北アルプス南部	3.21	0.22	0.07	0.34	3.84
上信越高原	1.86	0.15	0.03	0.35	2.39
秩父多摩甲斐	2.47	0.30	0.05	0.36	3.18
妙義荒船佐久高原	1.95	0.58	0.00	0.16	2.69
八ヶ岳中信高原	3.04	0.20	0.07	1.30	4.61
南アルプス	2.28	0.71	0.48	0.84	4.31
中央アルプス	5.83	1.21	0.63	3.40	11.07
御岳	4.16	0.66	0.00	0.88	5.71

今回の調査結果から、1kmあたりの撮影枚数の多い 南アルプス、中央アルプスに関しては、施設面及び周辺環境面から、配慮する箇所がみられた。

(2) 自治体及び山小屋関係者聞き取り調査結果について

- ・自治体聞き取り調査実施数 49 自治体
- ・山小屋聞き取り調査実施数 95 個 (対象山小屋数 : 193 個)
- ・自治体が維持に関わっている登山道路線数 98 路線 (対象路線数 : 130 路線)
- ・山小屋が維持に関わっている登山道路線数 50 路線 (対象路線数 : 130 路線)
- ・登山道維持に関わっていると回答した自治体数 42 自治体 (総数 : 49 自治体)

登山道の維持(草刈、施設修繕等)に、何らかのかたちで関わっている自治体が42と、85%以上を超えている。山小屋関係者を含め、意識の高い結果と思われる。

下記に、自治体聞き取り調査の結果より、維持管理に関すること、今後の登山道のあり方に関しての主な意見を明示する。

ア. 維持管理に関して

- ・自治体の単費で、諸団体(山小屋組合、遭対協、森林組合、ボランティア等)に委託している。
- ・草刈等簡易な作業は、自治体職員で対応している。
- ・荒廃施設、箇所等目視できる範囲で、定期点検を実施している。
- ・環境省、林野庁が独自に管理している。

イ. 今後の登山道のあり方に関して

- ・登山道整備の事業化を山小屋関係者も望んでいる。
- ・国、県の自治体への補助の枠組を増やしてほしい。
- ・国、県でも管理に関しての対応を検討してほしい。
- ・全てのことで環境省と相談、書面化であり、簡素化を望む。自治体が管理できる部分がほしい。
- ・県境、尾根整備のあり方が不明確である。
- ・観光面から地元ボランティアでPR活動を行ってきたが、高齢化が進み、単独での対応が厳しい。
- ・未整備箇所が増えてきている。
- ・登山道利用者のマナー改善、広報活動が必要である。

ウ. 山域・エリアごとの聞き取り調査結果内容

1) 北アルプス北部

① 自治体

- ・簡単な草刈、階段等の修繕は、地元山案内組合が主体となり行っている。
- ・補助制度（グリーンワーカー）を利用、自治体単費も導入している。
- ・維持管理、利用状況等の情報は自治体で把握している。

② 山小屋

- ・山小屋で草刈、雪渓にベンガラ表示等簡単な作業は自費で行っており、自治体からの助成等も活用している。
- ・登山口まで等、バス路線の充実の要望がある。
- ・トイレ費用徴収、バイオ式

2) 北アルプス南部

① 自治体

- ・各登山道路線ごとに管理（草刈・簡単な修繕）をしている。
- ・登山道整備のあり方研究会において、登山道管理の基本的な考え方を、国・県・市・地元関係者と連携し検討している。

② 山小屋

- ・山小屋で定期的な目視点検を行っている。簡易な草刈、修繕を行っている。
- ・山小屋自費及び登山道維持連絡協議会からの補助で対応している。
- ・トイレ費用徴収、地下浸透、カートリッジ、タンク、ヘリで下す。
- ・テント泊が増加傾向である。

3) 上信越高原

① 自治体

- ・自治体単費で、草刈等修繕を含め、外部委託している。
- ・道標等は森林管理署で設置、管理している。
- ・各自治体で負担している遭対協で管理している区域もある。

② 山小屋

- ・森林組合に委託、自治体で費用対応。
- ・トイレの維持、処分等は自治体で行っている。

4) 秩父多摩甲斐

① 自治体

- ・自治体で負担している遭対協で、草刈、簡易な修繕は定期的に行っている。

② 山小屋

- ・維持管理は埼玉県から委託で、行っている。規模が大きくなる場合環境省で対応。

5) 南アルプス

① 自治体

- ・山岳関係者、山小屋管理者に自治体予算の範囲内で管理を依頼している。

② 山小屋

- ・維持管理は山小屋自費で対応している。
- ・バイオ水洗式トイレである。

6) 八ヶ岳中信高原

① 自治体

- ・松本市は市単独費で、簡易な維持管理は森林組合へ委託している。
- ・諏訪周辺自治体は、維持管理に対して把握していない自治体が多くみられる。
- ・東信地区は、南佐久遭対協を含め自治体の補助で、管理を行っている。
- ・林野庁、森林管理署との連携で行っている。（東信地区）

② 山小屋

- ・山小屋組合、地元旅館組合等で、草刈、倒木対応等維持管理を行っている。
- ・浄化槽式トイレ、費用徴収。

7) 妙義荒船佐久高原

① 自治体

- ・遊歩道、歩道敷として利用、遭対協で管理している。

8) 中央アルプス

① 自治体

- ・伊那、飯田地区に関しては、山岳関係者、山小屋管理者等に自治体単費で、簡易な修繕作業等を委託している。
- ・木曾地区は、森林管理署と連携、観光面から地元ボランティア等、登山道整備に積極的な対応がとられている。

② 山小屋

- ・自治体、山小屋負担で、点検、修繕作業を行っている。
- ・トイレは、脱着タンク、カートリッジ、ヘリで搬送。

9) 御岳

① 自治体

- ・自治体、遭対協で維持管理を行っている。
- ・信仰の御岳を安易な登山と考えないでほしい。近年の降雪増加により残雪が多く、危険な雪渓が夏場まで残っている。

② 山小屋

- ・自治体が主体で、森林管理署、ボランティア連携で維持管理している。
- ・公衆トイレ、費用徴収、ヘリで搬送。

(3) 山岳環境緊急総点検・登山道調査業務に関する考察

長野県内の各山域について山岳環境の保全と計画的な登山道整備を推進するには、すでに「信州山岳環境保全のあり方研究会」の報告書において提言されているように、長野県内の山岳に関係する方々の合意形成と連携が重要であると考えられ、山岳環境保全(植生復元など)のための整備が求められている。

以下に、本業務で行った調査結果における【山域・エリアごとの現状と考察】を提示する。

① 中部山岳 北アルプス北部

1) エリアA(爺ヶ岳以北)

- ・登山道施設は登山口近くに木道・階段が設置されている路線が、他の山域と比較して多い。トイレが登山口に無い路線も見受けられ、延長に対してやや少なく思われる。登山道は大きな問題は見受けられなかった。
- ・一部の道標に損傷、風食による老朽化がみられた。
- ・多くの登山者が訪れる、猿倉から大雪溪を経て白馬岳に至る「猿倉白馬岳線」は地形的要因から斜面崩壊、落石が多いため近年事故が多発している。最盛期は地元遭対協により安全誘導措置などが実施されている。

2) エリアB(爺ヶ岳以南～槍ヶ岳)

- ・トイレ・宿泊施設は他の山域と比較して多く整備されているが、損傷有りの施設もある。登山道はエリアAと同様、概ね良好と思われる。
- ・一部の道標に風食による老朽化がみられた。
- ・白馬大池から白馬岳、鹿島槍ヶ岳、針ノ木岳、烏帽子岳などを経て三俣蓮華岳に至る「後立山連峰縦走線」は非常に長大であり、不動岳～南沢岳間には大規模な斜面崩壊・真砂流失がある。
- ・高瀬ダムからブナ立尾根を登る「高瀬烏帽子岳線」における濁り沢の丸太橋が増水により流失すると、登山道が寸断され、特に下山中の登山者が孤立するリスクが高い、利用者への情報提供が望まれる。

② 中部山岳 北アルプス南部

1) エリアA(槍ヶ岳・穂高岳)

- ・施設は急峻な箇所鎖場・鋼製もしくはアルミの梯子が多数あり。耐久性・安全性を考慮したものと思われる。稜線沿いに山小屋が多数存在する。登山道は急峻な箇所が多く、注意を必要とするが、大きな問題点は見られなかった。
- ・一部の道標に文字のカスレ等がみられた。
- ・多くの登山者が訪れる、横尾から槍沢沿いに槍ヶ岳に至る「上高地槍ヶ岳線」であっても、槍沢流域には毎年崩落を繰り返す枝沢もあり、利用者への情報提供が望まれる。
- ・上高地から奥穂高岳、北穂高岳、大キレットなどを経て槍ヶ岳に至る「槍穂高連峰縦走線」は国内第一級の岩稜ルートであり、転滑落事故の多発地帯でもある。登山道、施設ともに充実しているにもかかわらず、事故が多いのは、登山者の力量とコースの難易度のミスマッチなど利用

者側に何らかの問題があると思われる。登山道の岩質は概ね安定しているが、涸沢岳周辺などの様に不安定な箇所もあり、パンフレット等の情報・啓蒙活動が必要だと思われる。

2) エリアB(燕岳・蝶ヶ岳)

- ・施設は主に木階段が多く設置されており、状態は良好であった。トイレ・宿泊施設も整備されており、利便性が高い。登山道、施設ともに良好な状態である。
- ・比較的登山者の少ない、信濃常盤から餓鬼岳を経て燕山荘に至る「餓鬼岳燕岳線」では、一部の道標や木製ハシゴに腐食などの老朽化が見られた。
- ・多くの登山者が訪れる、安曇野から一ノ沢に沿って常念小屋に至る「一ノ沢常念岳線」は沢沿いにあるため、降雨や降雪による地形変化が大きく、崩落危険箇所もあり、利用上、注意を要する。
- ・利用者の多い、中房から大天井岳、西岳を経て槍ヶ岳に至る「中房槍ヶ岳線」では、登山口(中房)の駐車場問題が顕在化している。最盛期は定常的に満車になっていることが多く、自治体では公共交通機関(バス・タクシー)の利用を推進している。

3) エリアC(乗鞍岳)

- ・施設は主に木道が多く一部に損傷が見られるが、概ね問題ない。トイレ・宿泊施設は登山客に対して、ほぼ良好な状態である。
- ・比較的登山者の少ない、鈴蘭より位ヶ原を経て乗鞍岳に至る「乗鞍高原乗鞍岳線」麓部では、一定の整備は行なわれているものの、道標にカスレ・腐食、木橋や木道に腐食が点在し、草の繁茂により進入禁止標識が見えにくい箇所も見られた。

③ 上信越高原

1) エリアA(妙高、戸隠、雨飾山、黒姫山)

- ・トイレ・宿泊施設が他の山域に比べて少ない。道標以外の施設があまり見られないが、特に問題が無いと思われる。
- ・危険個所の多い、八方睨みから戸隠山、一不動、五地藏山を経て高妻山に至る「戸隠連峰縦走線」は特によく整備されている。また、近年問題となった一不動避難小屋周辺のトイレ問題に対し、携帯トイレ用ブースを設置するなど先駆的な試みも行われている。一不動周辺の環境汚染は、水場(氷清水)の水質汚染に直結することから、利用者への更なる啓蒙活動が望まれる。
- ・比較的登山者の少ない、戸隠牧場から黒姫山西麓をへて氷沢川に至る「笹ヶ峰戸隠牧場線」では、分岐点の道標破損(落下)や転倒を誘発しそうな木道(腐食・破損による木道の傾斜)が見られる。
- ・黒姫高原から小泉山道にて峰ノ大池に至る「黒姫山小泉山線」では、道標の破損(落下)や、通行支障木(倒木)が散見され、早期の対応が必要かと思われる。

2) エリアB(北部:苗場山)

- ・施設は主に木道が多く、一部損傷が見られるが、登山道、施設状況は概ね良好である。
- ・小赤沢ルートもしくは小松原コースから苗場山を経て、赤倉山に至る「苗場山登山道」では、道標に破損、文字のカスレ(判読困難)等がみられる。

3) エリアC(南部:菅平、浅間山)

- ・比較的登山者の多い、菅平から四阿山に至る「菅平四阿山線」、菅平から根子岳、四阿山を周回する「根子岳登山線」などは良好な状態である。
- ・浅間山を取り巻く各線も概ね良好な状態であるが、追分原から石尊山に至る「浅間山登山線」では、道標の破損(腐食による倒壊)がみられた。

④ 秩父多摩甲斐

1) エリアA(秩父多摩)

- ・縦走路線は、埼玉・山梨との県境であり、他県の道標も多数見られる。木階段・木栈道等が主な施設であり、概ね良好な状態である。一部の路線で倒木が多く見られた。
- ・三国山から十文字峠に至る「三国山十文字峠線」では、一部の道標に破損、判読不能のものがみられた。
- ・金峰山から国師ヶ岳を経て水師に至る「梓山国師ヶ岳線」国師ヶ岳～甲武信ヶ岳間の樹林帯では、道迷いし易い箇所(道標が全くなく、支障木が多い。登山者によって付けられたと思われる赤テープが点在している)があった。

⑤ 南アルプス

1) エリアA(北部:甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳)

- ・トイレ・宿泊施設は他の山域と比較して多くあり、登山道、施設状況は概ね良好である。倒木がみられる路線があった。
- ・甲斐駒ヶ岳から仙丈岳、三峰岳、塩見岳、赤石岳、聖岳などを経て光岳に至る「駒赤石山系縦走線」は県内で最も長大な路線である。本路線中の樹林帯では、通行に影響ないものも含めて倒木(支障木)が多く整備を要する。また、崩壊の進んでいる斜面も点在している。
- ・南アルプス全体に共通するが、10数年前よりシカによる食害が顕在化しており、高山植物群の貧相化が進んでいる。場所によってはマルバダケブキ、コバイケイソウしか残っていない所もある。鹿防護柵などの対策を講じているが、抜本的な解決には至っていないと思われる。裸地化進行による表土の流失、ライチョウの生態系への影響などが懸念される。

2) エリアB(南部:光岳まで)

- ・他県の道標が多く、道標以外の施設は少ない。トイレ・宿泊施設は間隔が長く、延長に対して少ない。登山道は崩落斜面や山側からの土砂流出箇所もあり、注意が必要かと思われる。
- ・主要縦走路である「駒赤石山系縦走線」では、崩壊の進んでいる斜面が点在している。本路線は距離が長い為、登山者が極めて少ない区間もあり、道標の破損(落下)箇所が散見される。特に中盛丸山周辺では、完全に朽ち果てて機能していない道標もみられる。また、荒川前岳～光岳間は静岡県側(椹島)から入山する登山者が多数を占めている。
- ・多くの登山者が利用する、大鹿村の鳥倉林道終点から三伏峠に至る「三伏峠線」は、特によく整備されている。
- ・聖光小屋から薊畑分岐に至る「西沢聖平線」では、麓部に土砂流出や落石箇所が多く、利用者への情報提供が望まれる。
- ・易老渡から易老岳に至る「易老岳線」では、登山口手前の林道部分で斜面崩落や土砂流失

のリスクが高く、対策が望まれる。また、登山道中の道標の破損(落下)箇所が散見された。

⑥ 八ヶ岳 中信高原

1) エリアA(北部:麦草峠、丸山以北)

- ・美ヶ原、霧ヶ峰周辺では道標も多く、麦草峠、丸山東側は木道が多い状況である。トイレ・宿泊施設は登山利用者が多い区域にまとまっており、登山道、施設状況は概ね良好である。
- ・美ヶ原周辺の主要縦走路であり、浅間温泉から武石峰、美ヶ原(王ヶ頭)、扉峠、和田峠などを経て霧ヶ峰(八島)に至る「中信高原線」には、車道との交差点が数箇所あり、車道からの入り口が分かりづらい。道標の設置が望まれる。
- ・八ヶ岳南北を貫く、蓼科山西麓から蓼科山、茶臼山、丸山、硫黄岳などを経て赤岳に至る「八ヶ岳縦走線」は、全線に渡ってよく整備されている。
- ・車山から大笹峰南西部に沿って八島ヶ原湿原に至る「北の耳南の耳」では、スキなどの繁茂により登山道が分かりづらい箇所がある。
- ・北横岳から丸山にかけての山麓部にめぐる「北八ヶ岳池めぐり線」では、一部の木道に腐食がみられた。

2) エリアB(南部)

- ・縦走を中心に鋼製の梯子・鎖場が多数あり、耐久性・安全性を考慮したものと思われる。トイレ、宿泊施設は登他の山域と比較して多く、概ね良好である。
- ・一部の道標に損傷、風食による老朽化がみられた。
- ・八ヶ岳南部では通年営業している山小屋もあり、最近では冬期の入山者が著しく増加傾向にある。

⑦ 妙義荒船 佐久高原

1) エリアA(妙義荒船 佐久高原)

- ・登山道、施設状況は概ね良好であるが、道標の破損(落下・判読不能)などの老朽化が目立つほか、一部の木橋に破損が見られた。
- ・本エリアでの登山者は荒船山に集中しており、他の山はあまり登られていない。また、荒船山では転落事故も発生しており、利用者への情報提供が望まれる。

⑧ 中央アルプス

1) エリアA(越百山以北)

- ・施設数は他の山域と比較して多い。稜線に至る登山道では木製の階段・栈道が、駒ヶ岳周辺植生の回復工が多く、空木岳山頂付近は土砂の流出防止施設が多数あった。登山道、施設状況は概ね良好である
- ・多くの登山者が訪れる、千畳敷から三ノ沢分岐を経て三ノ沢岳に至る「剣ヶ峰線」、駒ヶ池から池山小屋を経て空木岳に至る「池山線」はよく整備されている。また、主要縦走路で、木曾駒高原から麦草岳、木曾駒ヶ岳、桧尾岳、空木岳などを経て越百山に至る「駒ヶ岳縦走線」も良好な状態にある。
- ・ロープウェイが通年営業のため、仙丈敷カールは多くの利用者を迎えているが、その反面、宝

剣岳周辺での冬期の遭難事故も増加傾向である。

- ・比較的登山者の少ない、宮田村から北御所谷沿いに清水平を経て宝剣岳に至る「清水平前岳線」や、宮田村から桧尾根を登る「桧尾線」等では、道標の損傷個所が目立つ。また、木曾駒高原から赤林山を経て麦草分岐に至る「キビヨ登山線」では、崩壊地の通過箇所があり、利用者への情報提供が望まれる。

2) エリアB(越百山以南)

- ・登山道、施設状況は概ね良好であるが、本エリアは登山者が少なく、他の山域に比べて踏み跡が薄い。また、全体的に笹藪が濃いため、数年放置すれば登山道が判然としなくなる可能性が高い。トイレ・宿泊施設は登山道の延長に対して少ない傾向である。
- ・松川町から烏帽子岳を経て念丈岳に至る「烏帽子念丈岳線」などでは、地域の有志団体によって定期的な笹刈りが実施されているため利用し易い。しかし、それは烏帽子ヶ岳までであり、それ以降は藪が濃く登山道が不明瞭であったため、調査時の前進は断念した。

⑨ 御岳

1) エリアA(御岳)

- ・他の山域と比較してトイレ・宿泊施設は多く、御岳山頂周辺に宿泊施設・避難所が集まっており、登山道及び施設状況も概ね良好である。
- ・御嶽山は県内有数の信仰対象の山であり、一般登山者のほかに多くの信仰登山者を迎えており、最も多く利用されている、田の原から剣ヶ峰に至る「大滝線」は、非常に良く整備されている。
- ・比較的登山者の多い、中の湯から女人堂を経て剣ヶ峰に至る「黒沢線」では、樹林帯にある木段の老朽化が目立つものの、特段の支障はないと思われる。
- ・百間滝入口から女人堂を経て三ノ池に至る「三岳線」では、道標が比較的新しい反面、中規模の木橋の老朽化や鉄製階段の損傷があり、何らかの対応が必要と思われる。